

図書館における読書会の研究

研究の概要

社会教育施設としての公共図書館では、読書会（集会活動）の一環として、文学散歩やウィキペディアタウンなどの取り組みが行われています。また、学校教育においても、国語科教育や学校図書館でそれらが実施されることもあります。これまでの文学散歩は、主にまちを「歩く」ことに注目が集まっていましたが、そのような認識を改めることを目指し、「歩く」ことの前後にある「読む」「書く」などの活動も視野に入れていきます。

そのほかにもビブリオバトルや一箱古本市などの事例があるように、全国の公共図書館ではさまざまなイベントが実施されています。これらの活動を読書会と捉えることで、その歴史的背景や果たしている役割を追求しています。

これまでに、以下の研究成果を発表しています。

- 【図書】岡野裕行『文学散歩の研究』文学通信，令和8年，342p.
- 【論文】岡野裕行「図書館における復刻本の収集：野田宇太郎と日本郷土文藝叢書刊行会を中心に」『情報メディア研究』第24巻1号，令和7年，p.1-27.
- 【論文】岡野裕行「文学散歩と図書館」『図書館界』第75巻1号，令和5年，p.34-55.
- 【論文】岡野裕行「三つの文学散歩：野田宇太郎からウィキペディアタウンへ」『日本近代文学』第106集，令和4年，p.160-175.
- 【論文】岡野裕行「ビブリオバトルと子ども読書活動推進計画」『図書館界』第73巻5号，令和4年，p.438-460.



キーワード



- 図書館，読書会，集会活動
- 文学散歩，まちあるき，ウィキペディアタウン
- 文学館，文学情報資源
- ビブリオバトル，一箱古本市

連携アピール



図書館情報学と日本近現代文学研究の両分野にまたがる学際領域のテーマとして、これまでに文学館や文学散歩に関する研究を行ってきました。ここ数年は、まちなかに点在する文学的な痕跡をめぐり歩く活動に関心を持っています。そのほかにも、ビブリオバトルや一箱古本市など、本を介したコミュニケーションの場づくりにも関わっており、これら活動も読書会の一種として研究をしています。

研究者



岡野 裕行 教授 博士（学術）

OKANO Hiroyuki



文学部 国文学科

